

県北総合開発地域

土地分類基本調査

佐世保

5万分の1

国土調査

長崎県

1974

序 文

わが国は、近年、その国民総生産において世界の五指に数えられるまでに躍進する等飛躍的な経済発展をとげるにいたりました。

人と物との移動は激しく、伝統的な地域社会の構造は急激に変化しつつあります。この経済発展に伴い、いわゆる過密や過疎の地域現象、公害や交通問題等大きな社会問題が提起される状況にあります。

本県は、その恵まれた環境を保全しつつその特性を生かし、均衡ある県勢発展を目指して全県民が豊かで快適な生活を享受し得るよう、都市機能の充実、各産業の適正配置と発展をめざして諸政策を進めているところであります。

特に今回調査を実施する県北地域は本県でも大きな産炭地域であったが、エネルギーの流体化に伴い、人口も約16万人に激減した地域であり、経済基盤の確立をはかり大きく浮揚をはかるための諸政策が是非必要な地帯であります。

本調査はこのような諸政策を進めるに必要な諸調査のうち最も基礎的な「地形」「表層地質」「土壌」を主体とする土地条件を科学的総合的に調査することを目的として、国土調査法に基づく開発地域土地分類調査として、国土庁の国土調査費補助金を得て実施するものであります。

昭和48年度は「肥前小浜」「長崎」「大村」の3図幅を調査いたしましたが、49年度は「佐世保」「佐世保南部」「平戸」「早岐」（長崎県佐賀県協同）「唐津」（佐賀県長崎県協同）の5地域を調査し、今後も逐次整備して行く計画であります。

この調査の成果が広く関係者に活用されることを希望するものであります。この調査の実施にあたりご指導、ご助言を賜った国土庁土地局国土調査課の方々をはじめ、調査に直接たずさわっていただきました調査者の方々、資料徴収調査等積極的にご協力をいただいた市町村並びに関係機関の方々に対し心から謝意を表する次第であります。

昭和50年3月

長崎県理事（土地担当）

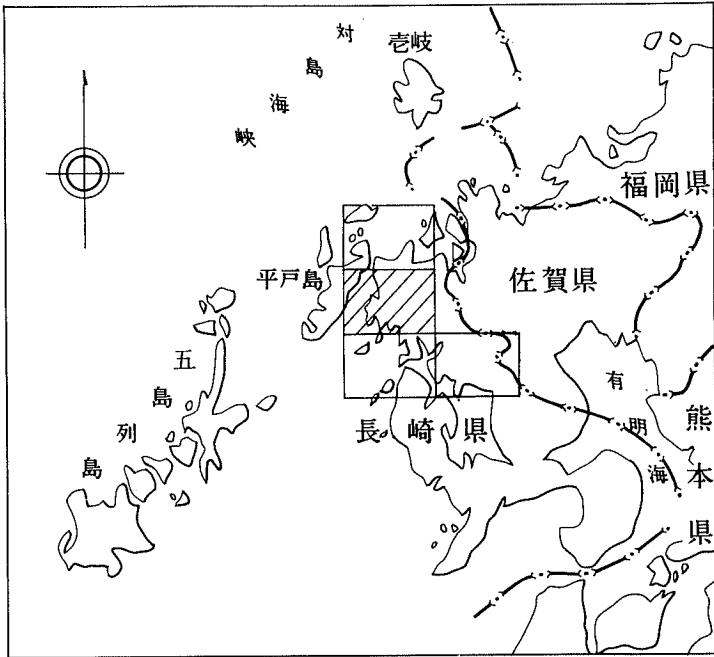
小 田 浩 爾

ま え が き

1. 本調査は長崎県開発地域土地分類基本調査作業規程に基づき、長崎県企画理事付企画主幹(土地対策担当)・農林部(総合農林試験場)・長崎大学教育学部の諸機関により実施したもので、調査の事業主体は長崎県である。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条1項4号の2の規定による土地分類基本調査図および土地分類基本調査簿である。
3. 調査基図は、測量法第27条第2項の規定により建設大臣が刊行した5万分の1地形図を使用した。
4. 調査の実施・成果作成の関係機関及び関係担当者は次のとおりである。

指 導	国土庁土地局	国土調査課	
総 括	長崎県企画理事付企画主幹(土地対策担当)	松 本 重 寿	
開発関連調査	副主幹	坂 井 幸 夫	
(開発規制)	〃	大 海 康次郎	
	主 事	菅 生 剛	
地 形 調 査	長崎大学教育学部	教 授	石 井 泰 義
開発関連調査			
(傾斜区分, 水系・谷密度)			
表層地質調査	長崎大学教育学部	教 授	鎌 田 泰 彦
開発関連調査			
(防 災)			
土 壤 調 査	長崎県総合農林試験場	科 長	小 野 末 太
		技 師	松 尾 俊 彦
協 力 機 関	長崎県関係各課および関係地方機関ならびに図幅内関係市町村		

位置図



目 次

序 文

まえがき

総 論

I. 位置および行政区画	1
1. 位 置	
2. 行政区画	
II. 地域の特性	2
1. 自然条件	
2. 社会経済条件	
III. 主要産業の概要	8
IV. 開発の現状と方向	9

各 論

I. 地形分類図	11
II. 表層地質図	16
III. 土 壤 図	24
IV. 傾斜区分図	27
V. 水系・谷密度図	28
VI. 防 災 図	29
VII. 開発規制図	35

總論

1 位置および行政区画

1. 位置：「佐世保」図葉は長崎県の北部に位置し、東経 $129^{\circ}30' \sim 129^{\circ}45'$ 北緯 $33^{\circ}10' \sim 33^{\circ}20'$ の範囲にあり、図葉内の陸地面積は $289,98 \text{ km}^2$ である。
2. 行政区画：本図葉の行政区画は佐世保市・平戸市・松浦市・北松浦郡田平町・江迎町・鹿町町・小佐々町・佐々町・吉井町・および世知原町の3市7町からなっている。

行政区画



第 1 表 図葉内の市町村別面積

区分 市町村名	図葉内面積		市町村面積 B (km ²)	A/B (%)
	実数 A (km ²)	構成 (%)		
佐世保市	69.36	23.9	249.77	27.8
平戸市	12.73	4.4	171.16	7.4
松浦市	35.38	12.2	94.70	37.4
北松浦郡田平町	12.70	4.4	34.97	36.3
江迎町	31.66	10.9	31.98	99.0
鹿町町	29.21	10.1	29.21	100.0
小佐々町	30.65	10.6	30.65	100.0
佐々町	32.38	11.2	32.38	100.0
吉井町	27.37	9.4	27.37	100.0
世知原町	8.54	2.9	31.84	26.8
計	289.98	100.0	734.03	39.5

資料：建設省国土地理院調べ（48. 10. 1 現在）

但し、図葉内面積については県企画主幹調べ

Ⅱ 地域の特 性

1. 自然条件

ア. 気象条件

図幅内地域の平均の最高気温は 20.5 °C であり平均の最低気温は 11.2 °C である。年間降水量はおおむね 1700 mm ~ 1900 mm であり九州型気候区のうち西海型気候区に属する。

沿岸部では特に温暖であるがこれは明かに対馬海流の影響である。長崎県は海岸線が複雑でその延長が長いのでそれだけ海の影響を受けることも多く、そのため冬は暖く、夏は比較的涼しいといった海洋性の気候に恵まれている。

第2表 月間平均最高気温

1 °C

観測所 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
佐々	11.4	12.0	14.0	20.0	22.8	26.0	31.2	32.1	26.6	22.3	16.4	9.9	20.4
世知原	11.0	12.3	13.6	19.6	21.9	25.7	30.5	30.8	25.3	21.2	14.6	8.4	19.6
佐世保	11.2	11.8	14.0	20.5	23.0	26.8	31.6	32.2	26.3	22.4	16.1	9.6	20.5
平戸	10.5	10.5	12.4	18.2	21.3	23.7	29.1	29.8	25.1	21.0	15.2	9.1	18.8

注：昭和48年1月～12月

第3表 月間平均最低気温

1 °C

観測所 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
佐々	3.9	3.3	3.9	10.2	13.6	17.3	23.4	23.4	18.0	12.6	6.8	1.9	11.5
世知原	3.0	2.8	3.8	10.1	13.5	16.4	22.7	23.3	17.9	13.1	6.6	1.7	11.2
佐世保	4.6	4.0	6.0	12.1	15.0	18.4	24.4	24.9	19.4	14.5	8.1	3.0	12.9
平戸	6.0	5.6	7.3	12.5	15.7	18.9	24.0	25.1	20.4	16.0	9.8	4.4	13.8

注：昭和48年1月～12月

第4表 月間降水量

1 mm

観測所 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総量
佐々	105	82	37	283	221	198	211	29	343	73	37	54	1,673
世知原	89	79	37	370	197	252	230	68	351	176	42	57	1,948
佐世保	77	89	38	287	182	260	232	49	336	151	30	47	1,778
平戸	120	93	12	294	199	204	186	57	280	138	46	64	1,693

注：昭和48年1月～12月 (資料)長崎県気象月報(長崎海洋気象台)

第5表 観測所の位置

観測所名	所在地	東 径	北 緯	海 抜	摘 要
佐々	北松浦郡佐々町佐々中学校	129°39'3	33°14'2	20 m	図葉内中央
世知原	北松浦郡世知原町世知原中学校	129°45'4	33°15'1	130	図葉外東側
佐世保	佐世保市大黒町佐世保測候所	129°44'1	33°09'1	17	図葉外南側
平戸	平戸市岩ノ上町平戸測候所	129°33'1	33°22'0	58	図葉外北側

イ. 土地利用の現況

関係市町村の土地利用の現況は第6表のとおりである。

本地域は長崎県の農業粗生産の地域別割合の内南高、西彼につき約17%の比率を占める地域であり近年畜産、野菜等の産地化が急速に進んでいる。

又西に西海国立公園、北に玄海国定公園を含み、レジャーリゾートの場として交通網の整備施設の拡充等をはかることにより今後の発展が期待される。

林業については、林産物を供給する経済的役割とともに、国土の保全、水資源の涵養、供給源、風致景観の保全、保健保養上の公益的な機能を持つものであり本地域の特性を十分考慮した森林資源の開発が必要である。

商工住宅地はおおむね国道204号線及び主要地方道沿線沿いに集中しているが、佐世保を除き過疎市町村であり、都市化の進捗は県南部に比較して遅いと考えられる。

第6表 土地利用の現況

(単位: ha, %)

市町村名	区分	総土地面積(A)	耕地面積(B)				耕地率(B/A)	森林面積(C)	森林率(C/A)
			田	畑	樹園地	計			
佐世保市		24,977	2,389	1,241	680	4,310	17.3	11,042	44.2
平戸市		17,116	1,722	961	227	2,910	17.0	9,547	55.9
松浦市		9,470	1,323	595	293	2,211	23.3	4,445	46.9
田平町		3,497	425	439	72	936	26.8	1,499	42.9
江迎町		3,198	335	145	48	528	16.5	1,784	55.8
鹿町町		2,921	184	83	108	375	12.8	1,734	59.4

区分 市町村名	総土地 面積 (A)	耕 地 面 積 (B)				耕地率 (B) / (A)	森林面積 (C)	森林率 (C) / (A)
		田	畑	樹園地	計			
小佐々町	3,065	138	72	79	289	9.4	1,937	63.2
佐々町	3,238	413	99	117	629	19.4	1,644	50.8
吉井町	2,737	319	72	53	444	16.2	1,338	48.9
世知原町	3,184	340	70	29	439	13.8	1,899	59.6
計	7,340.3	7,588	3,777	1,706	13,071	17.8	36,869	50.2
比率	100.0	10.3	5.1	2.3	17.8	—	50.2	—

資料：長崎県統計年鑑（49年）、長崎県の林業（49年）

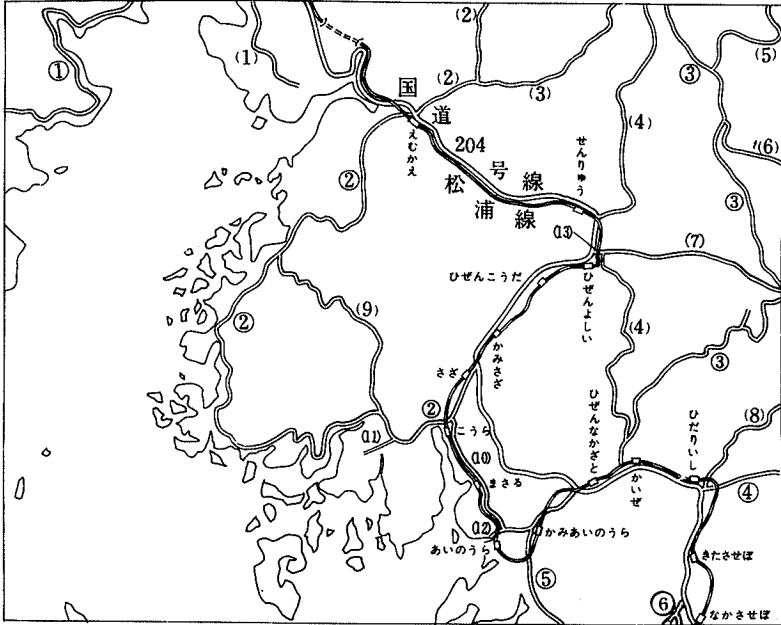
2. 社会経済条件

ア. 交 通

本図葉地域は、国道204号線、国道35号線及び主要地方道5本一般県道18本により道路網が形成されている。これらは地域の動脈として重要な役割を果たしており、国見トンネル、平戸架橋、佐世保バイパス等の短絡化が実現され、又西九州高速道等の構想の実現は大きく地域経済を変ぼうさせると考える。

鉄道については、エネルギーの流体化以前は松浦線の負う役割は大きなものがあつたが輸送体系は漸次道路輸送の比率が高くなりつゝある。

道路 鉄道 位置図



1. 道 路

	路線名	起 点	終 点
国 道	204号	唐津市	佐世保市

主要地方道

佐世保	伊万里線	④	平戸田平線	①
佐世保	口野松浦線	③ ⑤	佐世保港線	⑥
佐々、鹿町、江迎線		②		

一般 県道

伊万里、松浦線	(6)	佐世保吉井松浦線	(4)
佐世保、鹿町線	(9) (10)	江迎、星鹿線	(2)
相浦港線	(12)	松浦江迎線	(3)
世知原吉井線	(7)	上志佐今福停車場線	(5)

- 臼ノ浦港線 (11) 佐世保世知原線 (8)
 吉井停車場線 (13)

2 鉄道

路線名	起 点	終 点	主要な終遺地
松浦線	佐世保	有 田	平戸口・松浦・伊万里
イ. 人	口		

函葉内関係市町村の人口密度は 1 km^2 488.6人であり県平均384.4人より密度は高い。しかしこれは佐世保市の 1 km^2 992.9という高い人口密度のせいであり、佐世保市以外はいずれも200人前後であり、人口密度は低い。

又、人口推移は35年から45年までの10年間で20.5%減少している。本地域は大部分が産炭地域であり、エネルギーの流体化により閉山が続き佐世保市、平戸市、田平町を除いた市町村は、いずれも、40%~50%の減少であり甚しいものは60%で住居者の大部分が流出している。

46年以降も流出は続いたが最近になり安定増加の傾向が出て来たようである。

第7表 関係市町村の人口推移

年次 市町村名	35年	40年	45年	$\frac{45}{35}$	$\frac{45}{40}$	人口密度 (45年) 1 km^2 あたり(人)
	(人)	(人)	(人)	(%)	(%)	
佐世保市	262,484	247,069	247,898	94.4	100.3	992.9
平戸市	40,879	36,602	32,865	80.4	89.8	192.0
松浦市	44,057	32,859	25,801	58.6	78.5	272.5
田平町	10,462	9,795	9,024	86.3	92.1	258.2
江迎町	16,774	12,889	7,887	47.0	61.2	247.2
鹿町町	15,723	7,560	6,375	40.5	84.3	218.3
小佐々町	16,058	8,208	6,729	41.9	82.0	219.5
佐々町	19,982	12,767	10,987	55.0	86.1	339.3
吉井町	12,398	8,360	6,242	50.3	74.7	228.1
世知原町	11,986	8,842	4,757	39.7	53.8	149.4
計	450,803	384,951	358,565	79.5	93.1	488.6

資料：国勢調査

Ⅲ 主要産業の概要

本地域の佐世保市、平戸市を除く産炭地域市町村の就業構造は、35年第1次産業32%、第2次産業42%、第3次産業26%であり、45年は第1次産業37%、第2次産業25%、第3次産業38%で第2次産業就業人口の落ち込みが大きい。表8による県平均との比較で第3次産業就業人口が大きいのは炭坑閉山の影響が比較的少ない平戸、佐世保市の就業構造によるものである。

第8表 産業別就業人口の構成（45年）

（単位：人、%）

市町村名	産業別 総数	第 一 次 産 業				第 二 次 産 業				第三次 産 業
		計	農 業	林 業 狩猟業	漁 業	計	鉱 業	建設業	製造業	
佐世保市	113,956	11,243	9,957	45	1,241	29,638	747	9,006	19,885	73,075
平戸市	15,081	8,441	7,061	12	1,368	1,551	7	717	827	5,089
松浦市	10,835	4,556	4,072	6	478	2,183	30	840	1,313	4,096
田平町	4,066	2,028	1,880	3	145	491	13	237	241	1,547
江迎町	3,662	945	932	6	7	977	23	270	684	1,740
鹿町町	2,664	933	562	7	364	765	88	278	399	966
小佐々町	2,835	1,031	483	12	536	923	124	301	498	881
佐々町	4,942	1,172	1,163	6	3	1,647	77	635	935	2,123
吉井町	2,756	892	878	14	—	882	248	313	321	982
世知原町	2,117	941	936	5	—	490	59	165	266	686
計	162,914	32,182	27,924	116	4,142	39,547	1,416	12,762	25,369	91,185
比率	(100.0)	19.8	17.2	0.1	2.5	24.3	0.9	7.8	15.6	55.9
県全体に 占める割合	23.4	16.1	18.0	10.0	9.6	24.9	11.0	24.9	26.8	27.1

資料：国勢調査

第9表 主要産業の状況

区分 市町村名	農 業			漁 業		製 造 業 (47)			商 業 (47)	
	農家数 (45)	うち 専業 (45)	農業粗 生産額 (47)	経 営 体 数 (47)	総 漁 獲 高 (48)	事業所	従業員	製造品 出荷額	商店数	年 間 販売額
	戸	戸	百万円	体	百万円	所	人	百万円	店	百万円
佐世保市	6,080	823	4,524	958	1,509	834	18,619	93,071	4,569	155,796
平戸市	3,600	647	2,523	967	2,829	133	674	807	523	4,877
松浦市	2,070	426	1,799	277	395	135	1,835	3,051	417	3,689
田平町	1,014	248	853	96	149	9	49	157	134	3,111
江迎町	485	69	384	—	—	23	1,005	3,225	216	2,411
鹿町町	469	52	275	94	129	21	410	582	99	819
小佐々町	407	31	327	84	817	17	342	675	111	829
佐々町	648	89	471	—	—	30	712	1,530	173	2,990
吉井町	439	81	396	—	—	9	98	157	97	790
世知原町	414	70	375	—	—	11	381	363	86	531
計	15,626	2,536	11,927	2,476	5,828	1,222	24,125	103,618	6,425	175,843
県全体に 占める割合	16.5	13.5	15.8	13.3	15.0	22.3	26.5	22.7	24.2	22.9

資料：長崎県勢要覧（49年版）

Ⅳ 開発の現状と方向

本地域は10年前までは全国でも有数の産炭地域であつたが30年代後半からのエネルギー一体化時代を迎え石炭は完全に凋落し、これに変わる産業もみいだせず関係市町村の人口流出は35年450,803人から45年358,565人と激減したが最近はこの現象も鈍化し、ほぼ安定的に推移している。

50年3月福岡への新幹線乗り入れ、九州横断道路、武雄-佐世保バイパス、国見トンネル、平戸大橋等序々に交通条件も整備がはかられ、又、松浦臨海工業団地、又内陸部の工業団地の形成等徐々に地域浮揚の姿が表われて来ており、今後農漁村の近代化及び西海

国立公園玄海国定公園等を含む海洋性空間の開発等総合的広域的視野に立った開発が行われることにより本地域の開発はさらに新しい展開が期待できる。

各論

I 地形分類図

1. 地形の概要

本図幅の東南部には、起伏量 300 m 内外を示す弓張岳・但馬岳・将冠岳(445 m) や鳥帽子岳の中起伏山地が南部山地を形成し、中央部の東側には五蔵岳(456 m)・石盛山(490 m)が中起伏量を示して中央山地をなし、西部に大観山(374 m)・盲目ヶ原(367 m)・金比羅岳(280 m)・鷲尾岳(351 m)が同じく中起伏量を示して西部山地を形成し、さらに東北部に牧ノ岳・白岳(373 m)・高法知岳(412 m)・石盛山(428 m)が起伏量 200~300 m の中起伏量の東北部山地を形成している。これらの山地はいずれも山麓地を伴う中起伏山地であるが、山頂部に広い平坦面を有する溶岩台地であるため、ここではこれら中起伏山地を高位溶岩台地として取扱うこととした。西北部の石森山(240 m)・大岳(289 m)・吹上山(216 m)は起伏量 150 m 内外の小起伏山地であるが、上述の中起伏山地と同じ理由で、低位溶岩台地として取扱った。図幅の西北隅は中起伏量を示す平戸山地の一部で、西部山地の沿岸は沈降海岸で、半島部や島嶼部は起伏量 100 m 以下の丘陵地をなしている。

上に述べた地形の性状を細説するため次の地形区を設定した。

I 山地(台地) - 山麓

I a 南部山地(台地)

I a-1 弓張岳高位溶岩台地

I a'-1 弓張岳山麓地

I a-2 鳥帽子岳高位溶岩台地

I a'-2 鳥帽子岳山麓地

I b 中央山地(台地)

I b-1 石盛山高位溶岩台地

I b'-1 石盛山山麓地

I b-2 五蔵岳高位溶岩台地

I b'-2 五蔵岳山麓地

I c 西部山地(台地)

I c-1 大観山高位溶岩台地

I c'-1 大観山山麓地

- | | | | |
|----------|------------|----------|-----------|
| I c - 2 | 盲目ヶ原高位溶岩台地 | I c' - 2 | 盲目ヶ原山麓地 |
| I c - 3 | 金比羅岳高位溶岩台地 | I c' - 3 | 金比羅岳山麓地 |
| I c - 4 | 鷲尾岳高位溶岩台地 | I c' - 4 | 鷲尾岳山麓地 |
| I d | 東北部山地(台地) | | |
| I d - 1 | 牧ノ岳高位溶岩台地 | I d - 2 | 白岳原高位溶岩台地 |
| I d - 3 | 高法知岳高位溶岩台地 | I d' - 3 | 高法知岳山麓地 |
| I d - 4 | 石盛山高位溶岩台地 | | |
| I e | 西北部山地(台地) | | |
| I e - 1 | 石森山低位溶岩台地 | I e - 2 | 大岳低位溶岩台地 |
| I e - 3 | 吹上山低位溶岩台地 | I e - 4 | 荻田低位溶岩台地 |
| I f | 平戸山地 | | |
| I f - 1 | 上床中位溶岩台地 | I f' - 1 | 上床山麓地 |
| I f' - 2 | 川内峠山麓地 | | |

II 丘陵地

- | | | | |
|------|----------|------|----------|
| II a | 愛宕山丘陵地 | II b | 足毛馬丘陵地 |
| II c | 南九十九島丘陵地 | II d | 北九十九島丘陵地 |
| II e | 赤松崎丘陵地 | II f | 大西山丘陵地 |
| II g | 西山丘陵地 | II h | 不老山丘陵地 |
| II i | 調川丘陵地 | | |

III 低地

- | | | | |
|-----------|----------|-----------|---------|
| III a | 南部低地 | | |
| III a - 1 | 佐世保川谷底平野 | III a - 2 | 相浦川谷底平野 |
| III b | 中部低地 | | |

- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| Ⅲ b - 1 | 歌ヶ浦谷底平野 | Ⅲ b - 2 | 佐々川谷底平野 |
| Ⅲ c | 東北部低地 | | |
| Ⅲ c - 1 | 江迎川谷底平野 | Ⅲ c - 2 | 調川谷底平野 |
| Ⅲ c - 3 | 志佐川谷底平野 | | |
| Ⅲ d | 西北部低地 | | |
| Ⅲ d - 1 | 田代川谷底平野 | Ⅲ d - 2 | 坂瀬川谷底平野 |
| Ⅲ d - 3 | 釜田川谷底平野 | Ⅲ d - 4 | 末橋川谷底平野 |
| Ⅲ d - 5 | 川内川谷底平野 | Ⅲ d - 6 | 神曾根川谷底平野 |

2. 地形細説

2 - 1 山地 - 山 (I)

2 - 1 - 1 南部山地 (I a)

地形概要の項で述べたように南部山地は起伏量 300 m 内外の中起伏山地であるが、山頂部が平坦面を示す溶岩台地であるので、これを高位溶岩台地とし、第三紀層から成る山麓部をその山麓地とした。I b、I c、I d、についても同様である。弓張岳高位溶岩台地 (I a - 1) は将冠岳 (445.4 m)・但馬岳・弓張岳などが起伏量 240 ~ 300 m を示す溶岩台地で山麓地 (I a' - 1) との境界に比高およそ 100 m の急崖があり、将冠岳の東麓には地すべり地形がみられる。烏帽子岳高位溶岩台地 (I a - 2) は、この図幅ではその西側の一部がみられ北麓に地すべり地がある。

2 - 1 - 2 中央山地 (I b)

石盛山高位溶岩台地 (I b - 1) は、台地上に溜池を有し、その周縁には比高 100 m の急崖を有する。山麓地 (I b' - 1) は地すべり多発地で、地すべり鞍部には大里免他・動石 (ゆるぎ) 池・福田池・戈牟田池などの溜池が分布している。五蔵岳高位台地 (I b - 2) は板山 (464.8 m) 五蔵岳 (455.7 m) 韭岳 (358.3 m) など一連の溶岩台地であるが、I b - 1 に較べて山頂平坦面は縮小され、山麓地 (I b' - 2) との境界を頭部とする大型の地すべり地形が最も多くみられるところである。以上の如く中央山地は地

すべり多発地帯で、溜池の最も多く分布する地域である。

2-1-3 西部山地 (I c)

大観山高位溶岩台地 (I c-1) は金比羅岳 (348.1 m) ・大観山 (373.7 m) ・大野岳・冷水岳 (302.9 m) などが一連の平坦面を形成する溶岩台地で、金比羅岳・大観山の西側・上歌ヶ浦には古い大型の地すべり地形が発達している。盲目ヶ原高位溶岩台地 (I c-2) は、盲目ヶ原 (366.8 m) から北方に低夷する溶岩台地で、その山麓地 (I c'-2) は地すべり地形に乏しい。金比羅岳高位溶岩台地 (I c-3) は、その東側を断層によって切れ、山頂平坦面が西方に低夷している。鷲尾岳高位溶岩台地 (I c-4) は鷲尾岳 (350 m) を中心に東西に細長い溶岩台地で、その北側に地すべり地形が発達し、山麓地 (I c'-4) の傾斜も北側に緩かである。

2-1-4 東北部山地 (I d)

牧ノ岳高位溶岩台地 (I d-1) は牧ノ岳 (300 m) はビュート状溶岩台地で、山頂部の傾斜は 15° ~ 20° である。白岳原高位溶岩台地 (I d-2) は白岳 (373.3 m) がビュート状をなし、その南縁に合戦原・白岳原・堤原などの平坦面を有する二重構造の溶岩台地で台地上には白岳池・太平池・道清池・福万寿池・堤原池・辻田池など多くの溜池が分布している。台地を刻む嘉例川上流には小規模の地すべり地形がみられる。高法知高位溶岩台地 (I d-3) は高法知岳 (411.3 m) から棕呂路峠に至る台地面で、東南部では浸食されて狭小な残丘状になっている。台地縁辺の急崖下には鞍部があり、古い大型の地すべり地形が展開し、山麓地 (I d'-3) との境界には掛橋池・長田池などが配列している。最近活動した地すべり地形は東北部に多く指摘される。石盛山高位溶岩台地 (I d-4) は、石盛山 (425 m) ・豆五郎山一帯の溶岩台地で、西南は志佐川、北西は調川川に急崖で接し、山麓地を欠き、急崖での地すべりが発生している。

2-1-5 西北部山地 (I e)

この地域は起伏 100 ~ 150 m を示す小起伏山地であるが、山頂部が平坦な溶岩台地で標高 200 m 内外の山地であるため低位溶岩台地として取扱うこととした。なお、この地域は低位溶岩台地とその周縁の急崖から構成され、山麓地を伴わない。石森山低位溶岩台地 (I e-1) は、石森山を中心とする傾斜 8° ~ 15° の緩傾斜地で、田代川に臨む木場で小型の地すべり地形がある。大岳低位溶岩台地 (I e-2) は、大岳 (289.1 m) 周辺

の台地で西南部は江迎湾に臨む急崖をなしている。地すべり地形はみられない。吹上山低位溶岩台地（I c - 3）は吹上山（216.1 m）周辺の台地で縁辺は平戸瀬戸に臨む急崖で、七尋滝・夕霧滝などの遷移点がある。

2-1-6 平戸山地（I f）

上床中位溶岩台地（I f - 1）は上床（374 m）を中心とする起伏量200～280 mを示す中起伏山地であるが山頂部は平坦な溶岩台地で山麓地（I f' - 1）には地すべり地形が発達している。川内峠山麓地（I f' - 2）は川内峠中位溶岩台地（平戸図幅）の山麓地で地すべり地形を有する。

3-1 丘陵地（II）

愛宕山丘陵地（II a）は中央山地から分離した丘陵で、ビュート状の愛宕山（259.2 m）を有する。足毛馬丘陵地（II b）は中腹に第三紀層の平坦面をもち、山頂部に足毛馬（173.8 m）のメーサを有する丘陵地で足毛馬の東に地すべりが発生している。南九十九島丘陵地（II c）は図幅西南部にみられる半島部の長崎山（145.8 m）・浅子山（135.4 m）など起伏量100 m以下の丘陵地と前島・焼島・高島などの島嶼部の丘陵地からなる。北九十九島丘陵地（II d）は、神崎以北にある起伏量100 m以下の半島部の丘陵地と九頭島・瀬尻島・浅島などの島嶼部の丘陵地を含んでいる。赤松崎丘陵地（II e）は平戸島東岸の丘陵地で、大西山丘陵地（II f）は西部山地（I c）の西北に位置し、大西山（225 m）を中心とする起伏量・100 m～200 mの丘陵地で、西側に中型の地すべり地形がみられる。西山丘陵地（II g）は東北部山地（I d）の北に位置する丘陵地で、丘陵を刻む悪太郎川の西岸に地すべりが発生している。不老山丘陵地（II h）は、大塔峠以北の不老山（288.4 m）を中心とする丘陵地で、調川丘陵地（II i）は調川右岸の丘陵地で地すべり地形を有する。

4-1 低地（III）

南部山地（II a）の弓張岳（II a-1）と烏帽子岳（II a-2）の間に佐世保川谷底平野（III a-1）が介在し、南部山地と中部山地（II b）との間に相浦川谷底平野（III a-2）が発達しており、相浦川谷底平野の両岸には河岸段丘が発達し、又、地すべり地形が特に右岸によくみられその地形面上は棚田が多い。河口には干拓地、人工造成地を有する。西部山地（II a）と大西山丘陵地（II f）との間に歌ヶ浦谷底平野（III b-1）が介在し

中部山地と西部山地ならびに東北部山地との間に相浦川谷底平野（Ⅲ b-2）が発達し、特に左岸には地すべり地形が多く、その地形面上は棚田が発達している。河口には干拓地、人工造成地を伴っている。江迎川は本流の上流部を佐々川によつて争奪された河川で、その谷底平野（Ⅲ e-1）は、狭小な本流のほか、山田川、鹿町川、嘉例川などの支流の谷底平野に分岐している。調川川が石盛山山地（Ⅰ d-4）を刻む谷底平野（Ⅲ c-2）は図幅の西北端にあり、東北部山地（Ⅰ d）を大きく刻んで発達した志佐川谷底平野（Ⅲ c-3）は、左岸に緩傾斜の地すべり地形面を連続的に有し、棚田の発達が著しい。田代川、坂瀬川、釜田川は東北部の低位溶岩台地面を浅く刻んで、北に緩流する河谷で、各河川がそれぞれ、田代川谷底平野（Ⅲ b-1）、坂瀬川谷底平野（Ⅲ d-2）、釜田川谷底平野（Ⅲ d-3）を形成し、末橋川は、同じ低位溶岩台地を刻んで東南に流れ、夕霧籠の遷移点を経て、江迎湾に達する谷底平野（Ⅲ d-4）を形成している。

図幅の西北部の平戸島には川内川谷底平野（Ⅲ d-5）ならびに神曾根川谷底平野の一部がみられる。

（長崎大学教育学部 石井泰義）

Ⅱ 表層地質図

本図幅は、佐世保炭田（北松炭田）の中心地域であり、佐世保層群に属する含炭第三紀層が広く分布する。また西部の九十九島一帯ではその上位の野島層群が分布し、淡水性貝化石が産出することは古くからよく知られている。

これらの第三紀層を被覆して厚い玄武岩が発達し、溶岩流の原面は溶岩台地を形成している。しかし、中央部から南部にかけては、浸食が進んだ結果、溶岩台地はきれぎれになり、ついには愛宕山（相浦富士）のような孤峰をなすに至っている。佐世保市街地の西側に連なる将冠岳・但馬岳・弓張岳も浸食に取残された一種の残丘である。玄武岩の基底にはハノ久保砂礫層とよばれる堆積層が存在する。とくに中央部の佐々・吉井・江迎町一帯にはもっとも厚く発達し、岩質は主として古期岩類の堅硬な円礫と砂質の充填物よりなる。

平戸島では、凝灰質の岩相をもつ平戸層が基盤をなし、それを被覆して安山岩質凝灰角礫岩、安山岩、玄武岩の順で重なる。一部には粗粒玄武岩や安山岩の貫入岩体がある。

本図幅内には顕著な地すべり現象が至る所で発生し、日本有数の地すべり地帯になっている。とくに玄武岩の分布の末端部付近の第三紀層の表層部に地すべりが起ることが多く、「北松型地すべり」とよばれる地すべりの一類型をなしている。

1. 未固結堆積物

1-1 礫・粘土（崖錐堆積層）gcl

本図幅内には至る所で地すべり現象が認められるが、長い地質時代の間に行われた地すべりの滑動の結果、崖錐堆積層が集積して厚い崩積土を形成している。主として玄武岩起源の茶褐色粘土よりなり、多量の未風化の新鮮な玄武岩の転石を含む。八ノ久保砂礫層が玄武岩の基底部に発達する地域の崩積土中には、堅硬な古期岩類の円礫を含むことがある。

1-2 礫・砂・泥（沖積低地堆積層）gsm

本図幅内を流れる江迎川、佐々川、相浦川の中流・下流部には、転石まじりの砂質粘土により埋積された沖積低地が発達する。佐々川と相浦川の川口付近の沖積低地は干拓や埋立が行われている。

2. 半固結堆積物

2-1 砂礫・粘土（段丘堆積層）t

佐々川と相浦川の両岸ぞいで、比高5～20mの河岸段丘が発達する。佐々町の旧市街地はこの段丘の上にある。

2-2 礫・砂（八ノ久保砂礫層）Hgs

佐々川と相浦川の分水界をなす地域と、江迎川の北側の玄武岩の基底部には、主として古期岩類の円礫よりなる砂礫層が発達する。代表的な露出地としては、佐世保市八ノ久保、吉井町樽川内、江迎町馬ノ元などがある。その層厚は最大が20mであり、側方に層厚や岩相の変化がみられる。下位の第三紀層とは不整合関係にあるが、上位の玄武岩の基底部の溶岩とは指交関係にあり、整合的である。本層を構成する中～大礫の礫の間を充填する粗粒砂の固結度は低いので崩壊しやすい。

2-3 砂岩・泥岩・凝灰岩（平戸層）Hd

図幅の北西部の平戸島に分布する平戸層は、主として固結度の低い細粒砂岩・泥岩・凝灰

岩の互層よりなり、岩相の側方変化が著しいため、細かな層序区分が困難である。全般的に凝灰質であることや、成層状態の不安定な点は、対岸に分布する佐世保層群や野島層群と相違する。

3. 固結堆積物

3-1 砂岩（深月層）Nf

細～粗粒砂岩を主とする厚い地層であるが、泥岩の薄層をはさんで互層をなす部分も多い。主な分布は、江迎湾の両側、北九十九島の島々である。深月層の基底部には、厚さ20～50mの顕著な凝灰角礫岩（小島崎凝灰角礫岩）があり、これにより大屋層との識別が容易である。深月層は淡水成層である。

3-2 砂岩・泥岩・凝灰岩互層（大屋層）No

火山砕屑岩が優勢な地層であり、全体的には砂岩、泥岩、砂質泥岩、凝灰岩が互層をなす。本層下部にはタニシ、ランプロツラなどの淡水生貝化石を豊富に含み、野島化石帯として有名であり、本層もまた淡水成層である。

3-3 泥岩・砂岩（加勢層）Sk

佐世保層群の最上部に含められている地層であるが、下位の福井層とは不整合関係であり、無炭の海成層である。本層下部は特徴ある黒灰色の泥岩～砂質泥岩（前加勢黒色頁岩）であり、有孔虫化石を多産する。その模式地の鹿町町本ヶ浦東方の峠付近の露出面はセメントの吹付けにより隠されてしまった。上部は厚い砂岩となり、海生～汽水生の貝化石を含む。

3-4 砂岩・泥岩・石炭（福井、世知原、柚木、中里層）Sf、Ss、Sy、Sn

佐世保層群の主体をなすこれらの地層は、岩質の上では互いに共通性をもつが、各層間の境界は、上から砂磐層、松浦三尺層（鹿町三尺層）、柚木三枚層の各炭層の上盤をもって設定されている。分布は凶幅のほぼ中央を斜めに走る佐々川衝上断層により、東西に分離している。

地層は全般的に砂岩の優勢な砂岩、泥岩、縞状砂質泥岩の互層よりなり、しばしば石炭層や凝灰岩を挟む。柚木層上部と福井層上部には、連続性に富んだ塊状の厚い中～粗粒砂岩があり、切立った高い断崖をつくる。福井層上部の厚い砂岩は、とくに岩石砂岩とよば

れている。一般に比較的厚い塊状砂岩は、主として分級良好な中粒砂岩よりなり、露出面では黄白色を呈するが、更に褐鉄鉱の析出で美しい同心円的模様があらわれ、“迷彩砂岩”とよばれている。

3-5 砂岩・泥岩・石炭（相浦層）Sa1、Sa2、Sa3

大瀬五尺層とよばれる主要稜行炭層以下の佐世保層群は相浦層としてまとめられる。非常に厚い地層であるため、モエズ層と相浦三枚層をもつて更に細分され、上位から但馬岳、かしまえ 鹿子前、あまがた 尾瀨の3亜層に分けられている。

地層は主として塊状砂岩よりなるが、層準により砂質泥岩や泥岩と互層をなし、また泥岩にともなつて薄炭層をひんばんに挟在する。上部相浦層の一部は海緑石粒を含む海成層であり、海生貝化石を産出し、まさる 真甲化石帯として知られている。佐々駅北方の城辻山の山頂部は、相浦層最下部の中～粗粒砂岩の厚層よりなり、顕著な断崖をつくっている。

3-6 泥岩・砂岩薄互層（波多津泥岩層）Kh1

本図幅内では佐々川下流域に分布し、古川頁岩層とよばれている。薄層理の泥岩と砂岩の密互層を主体とするが、中部は斜層理をもつ砂岩となる。

3-7 砂岩・砂質泥岩（波多津砂岩層）Kh2

佐々川河口付近の右岸に分布し、細粒砂岩や玉ねぎ状風化を呈する暗灰色砂質泥岩を主とする。貝化石を種々の層準から産し、また有孔虫化石も見いだされている。

3-8 砂岩（行合野砂岩層）Ky

小佐々町高崎山と上小高島西岸に分布し、海緑石様物質を含む砂岩と、砂岩泥岩互層よりなる。早岐図幅における蔵宿砂岩に相当する様な砂岩の厚層は発達しない。

3-9 砂岩凝灰質泥岩互層（佐里砂岩層）Ks

凝灰岩、凝灰角礫岩を挟む泥岩を主とし、泥岩砂岩の互層もみられる。いわゆる“骨石帯”に対比される地層で、凝灰質岩の挟在により特徴づけられる。

4. 火山性岩石

4-1 佐世保層群中の凝灰角礫岩層（小島崎・本ヶ浦・歌ヶ浦・江里凝灰角礫岩）tb

野島層群深月層最下部をなす小島崎凝灰角礫岩層と、佐世保層群福井層の最上部の本ヶ

浦凝灰岩層および最下部の歌ヶ浦凝灰角礫岩層は、それぞれ鍵層をなす火山屑岩として重要である。小島崎凝灰角礫岩は 20～50 m の層厚をもち、北九十九島の北は鹿町町の小島崎より、南は小佐々町の神崎鼻（日本本土最西端）に至る間に追跡される。また福井層中の凝灰岩は、鹿町町歌ヶ浦・本ヶ浦や、吉井町御橋観音付近に良好な露出がある。また、柚木層中部には厚さ約 5 m の江里凝灰角礫岩があり、やはり鍵層として重要である。石英安山岩の角礫を含む安山岩質凝灰岩よりなる。

4-2 佐世保層群中の凝灰岩（石岳凝灰岩層）t f

佐世保市相浦町や日野町の相浦層中部に挟在する凝灰岩で、小豆大の礫をもち、その直上と直下とに常に薄い炭層を伴っており、相浦層中の鍵層としてよく追跡される。

4-3 安山岩質岩石 A n

平戸島川内港南部に分布し、凝灰角礫岩の上に溶岩状を呈する複輝石安山岩と、平戸層中の貫入岩体とがある。京崎海岸の貫入岩体は多孔質な輝石安山岩であり、二次的変質を受け、緑泥石化や方解石による置換が行われている。

4-4 安山岩質火山角礫岩 T b

平戸島において平戸層を被覆する火山砕屑岩であり、安山岩と玄武岩溶岩におおわれる。角礫は複輝石安山岩であり、空隙が沸石で満たされているのが特徴的である。

4-5 玄武岩 B a

長崎県北松浦郡一帯に広く分布する松浦玄武岩の一部をなすもので、多くの溶岩流が重なり合い、第三紀層を不整合に被覆している。各溶岩の基底部分は一般に多孔質であり、最上部には赤色粘土になった風化帯をもつ場合が多い。溶岩間に岩滓（スコリア）層を挟在することがあるが、本図にはあらわしていない。大部分はカンラン石玄武岩であり、岩型として斑晶質と無斑晶質とがある。佐世保市妙観寺峠付近の溶岩の K-Ar 法による年令はおよそ 800 万年である。

4-6 粗粒玄武岩 D o

平戸市川内町にわずかに分布するもので、平戸層に貫入し、岩脈または岩床状をなす。粗粒玄武岩に貫かれた平戸層の泥岩は熱変成を受けてホルンフェルス化している。

5. 応用地質

5-1 石 炭

本図幅は佐世保炭田の中心地域であり、古くから多くの炭鉱によつて採炭が行われていた。石炭層は佐世保層群中に含まれている。全般的に薄層であるが、佐々川衝上断層以西の地域においては、わが国における唯一の製鉄原料用強粘結炭が採掘されていた。主要稼行炭層は、上から三枚物、福井一枚、砂盤へだもの（隔物）、松浦三尺（鹿町三尺）、大瀬五尺などである。

5-2 採 石

建設用粗骨材として、鹿町町歌ヶ浦、江迎町潜竜、吉井町樽川内などにおいて玄武岩の採石が行われ、バラスとして出荷している。

比重・吸水量の地区別の平均値は次の通りであるが、吸水量が著しく小さい。

地 区	比 重	吸 水 量
鹿 町 町	2.651	0.021 %
江 迎 町	2.854	0.012 %
吉 井 町	2.941	0.007 %

5-3 地 す べ り

本図幅は、いわゆる「北松型地すべり」の多発地帯であり、江迎町の鷲尾岳、吉井町の樽川内、平山、世知原町の長田代などのように、昭和20・30年代に大規模な滑動を起した地すべり地区が含まれる。一次的地すべりとして、佐世保層群中の特定な層準の泥質岩の軟弱化（粘土化）により、順層すべりをする場合に地盤の変形も大きい。また周期的な地すべりの結果により厚く生成された崩積土中に地すべり面ができると、慢性的な二次的地すべりが行われる。

本図幅の地すべり防止指定区域は60ヶ所にも達し、それぞれ防止対策工事が行われている。主な工事は集水井・トンネル・横孔ボーリングによる地下水の抜水と、杭打による抑止工法などである。

（長崎大学教育学部 鎌 田 泰 彦）

主要参考文献

- 地質調査所(1965) : 20万分の1地質図幅「長崎」
- 古川俊太郎(1969) : 佐世保炭田佐世保市南西部地域地質図ならびに説明書
日本炭田図 IX, 1-35. 地質調査所
- 古川俊太郎(1970) : 佐世保北部地域地質図 (1:25,000) 地質調査所
- 古川俊太郎(1974) : 佐世保炭田南西部地域地質図ならびに説明書 日本炭田図
XII, 1-10. 地質調査所
- 岩橋 徹(1960) : 長崎県北松浦郡九十九島・佐々地区の杵島層群の層序と地
質構造—佐世保炭田〃の研究(その1)
九州大学理研報(地質)5, 1, 1-13.
- 岩橋 徹(1961a) : 北松地域およびその周辺に見られる八ノ久保砂礫層(新称)
について—佐世保炭田〃の研究(その2) 同上 5,
2, 80-97.
- 岩橋 徹(1961b) : 佐世保炭田に分布する相ノ浦層群の総括的層序、岩相変化、
堆積状況について—佐世保炭田〃の研究(その3) 同上
5, 3, 111-128.
- 長浜春夫(1954) : 佐世保炭田におけるいわゆる佐世保層群上部について
地調月報 5, 8, 413-440.
- 長浜春夫(1965) : 斜層理からみた北西九州第三紀層の堆積 地調報告 211,
1-66.
- 野田光雄(1957) : 唐津・佐世保両炭田内の地じりについて 九州鉱山学会誌
25, 11, 443-452.
- 佐世保市企画部(1966) : 佐世保市地質図(付ボーリング柱状図)佐世保市役所
- 沢田秀穂(1958) : 北松炭田地質図・同説明書 日本炭田図 II, 1-130.
地質調査所
- 浦田英夫(1956) : いわゆる野島層について 九州大学教養部地学研報 2,
47-56.

上 治 寅 次 郎 (1 9 3 8) : 北 松 浦 炭 田 地 質 説 明 書 (付 地 質 図 及 断 面 図) 1 - 5 0 .

北松南部鉱業会

地層および岩石一覽

(平 戸 ・ 佐 世 保 図 幅)

地質時代		地質系統		表層地質分類					
新 第 三 紀 古 第 三 紀	第四紀	(現世) 沖積世	埋立地物 海浜堆積層 崖錐堆積層 沖積低地堆積層	c g s g c l g s m	土 石 礫・砂 礫・粘土 礫・砂・泥	未固結 堆積物			
		洪積世	段丘堆積層	t	砂礫・粘土	半固結 堆積物			
	新 鮮 新 世		松浦玄武岩類		B a S c	玄武岩 岩 滓 (フ コ リ ア)	火 山 性 岩 石		
			豊肥火山岩類		A n T b	安山岩質岩石 安山岩質凝灰角礫岩			
			八ノ久保砂礫層		H g s	礫・砂	半固結 堆積物		
			平戸層		H d	砂岩・泥岩・凝灰岩			
	中 新 世	野層 島群	深月層		N f	砂岩	固 結 堆 積 物		
			大屋層		N o	砂岩泥岩凝灰岩互層			
		佐世保層群	加勢層		S k	泥岩・砂岩			
			福井層 世知原層 柚木里層 中里層 相浦層		S f S s S y S n S a 1 S a 2 S a 3	砂岩・泥岩・石炭			
			漸 新 世	杵島層群	波多津泥岩層			K h 1	泥岩砂岩薄互層
					波多津砂岩層			K h 2	砂岩・砂質泥岩
	行合野砂岩層				K y	砂岩			
	佐里砂岩層				K s	砂岩凝灰質泥岩互層			
	(杵島層)				K k	泥岩			

Ⅲ 土 壤 図

1. 山地の土壤

1-1 土壤の概要

佐世保市を中心とするこの地方はおゝむね三紀砂岩・頁岩の互層から成り、これを被つた玄武岩台地が処々に転在している。玄武岩地帯には暗赤色の土壤が広くみられ、三紀層地帯では黄褐色系の土壤が多い。県下で最高の人工林率に達しており、造林意欲は根強い。生産力は概して高いが部分的に生ずる極めて乾性の強いせき悪地の数も多い。旧来の採草地、或は放牧地やボタ山の林地への転用がかなりあるのも特徴的である。

1-2 細 説

1-2-1 乾性褐色森林土壤

西海岸金比羅岳周辺の凸部、及び吉井町、佐世保市北部にみられる。ほとんど玄武岩を母材とし、ヒノキの造林がきわめて進んでいる。海岸近くのもの三紀層に由来し乾燥がひどく植林には不向きなところが多い。

1-2-2 乾性褐色森林土壤（黄褐色系）

この図幅では耕地周囲の低地帯から海岸までにわたり玄武岩を母材とするところでは山頂近くまでよくヒノキの植栽がみられる。生長は必ずしも満足すべきものではない。（40年生時の樹高で10m以下の例が多い）

1-2-3 褐色森林土壤

1-2-1項に伴なつた凹部に分布する。スギ、ヒノキの植栽が進んでおり、生産力は概して高い。

1-2-4 褐色森林土壤（黄褐色系）

図幅全域に巾広く出現する。B～C層が10YRの色調を呈する土壤で玄武岩由来のものと三紀層を母材とするものがあり、性格が微妙に異なる。前者はおしなべて似たような生産力を示すが、後者は水分の供給が順調な位置では極めて高い生産力を持つ反面、やや地形的に乾性が予想されるところでは直ちに生長が鈍る傾向がある。

1-2-5 暗赤色土壤（乾性）

下層の色調の赤みが強く、玄武岩を母材とする土壤統群で松浦市、世知原町、佐世保市

に主として分布する。山頂附近に多いが、造林地として濃密に利用されている。一見した感じではよく伸びているようだがやはりヒノキの場合SI 10前後の例が多い。

1-2-6 暗赤色土壌

前項のものより乾燥の度合が低いものをこれにまとめた。造林地としてよく利用され、生産力は一般に高い。

1-3 山地の土壌と土地利用

国立公園九十九島を中心とする海洋の影響が強い地域にはスタジイ等照葉樹林やマツ林が多く、又、市街地周辺にもかなり残つて佐世保市等の都市緑化の努力とマッチした点もみられる。マツクイムシ被害が問題とされ、予防もかなり大規模に行なわれている。

世知原町を中心とした造林地帯には殆ど広葉樹がみかけられないほど人工植栽が行き渡っている。時折みられる小面積の竹林が住民の多角経営の知恵を想わせる程度で、いささか淋しい。再造林地の地力低下が論議され始めており、地方維持、増進をはかる施業法が今後真剣に考えられる必要があろう。

(長崎県総合農林試験場 松尾俊彦)

2. 丘陵台地低地の土壌

2-1 土壌の概要

本図幅は長崎県の北西部と佐世保市の西部を占めている。第三紀層を基盤とし、その上部は安山岩、玄武岩に覆われ山地を形成している。烏帽子岳、隠居岳、八天岳、国見山、人形石山等の連山より源を発する相ノ浦川、佐々川、江迎川、志佐川、等の流域には低地が発達しているが、各河川の流域ともに次第に市街化が進み、とくに相ノ浦川流域は殆んど市街地になりつつある。西部は平戸市の一部が入り、第三紀層の上部を安山岩、玄武岩が覆い、河川の発達は少ない。

丘陵地の土壌の大部分は黄色土壌で水田および畑として利用されており、一部に赤色土壌、暗赤色が散在している。低地には褐色低地土壌、灰色低地土壌およびグライ土壌が分布している。

2-2 土 壤 細 説

2-2-1 赤色土壤

下層土の土色が5 YR 4/4 より赤い土壤である。玄武岩および安山岩の風化物を母材とする土壤で、表土の土性はCL~LiC1下層土はLiC~HCである。丘陵地および台地に分布し、主として野菜、飼料作物、ミカン、麦、甘藷等が栽培されている。

2-2-2 黄色土壤

下層土の土色が5 YRより黄色味の強い土壤である。表土の土性はCL~LiC1下層土はLiC~HCである。玄武岩および安山岩の風化物を母材とする土壤で、丘陵斜面や台地に分布している。

野菜、飼料作物、ミカン、麦、甘藷等が栽培されている。

2-2-3 黄色土壤(湿性)

黄色土壤で鉄、マンガンの斑紋結核を有する土壤である。安山岩、玄武岩、および第三紀層の風化物を母材とする土壤で、表土の土性L~LiC、下層土はCL~HCである。

水田として利用されている。

2-2-4 暗赤色土壤

赤色土壤に似ているが、それよりも明度彩度ともに低く、下層土の土色は5 YR 4/4又はそれ以下である。玄武岩の風化物を母材とする土壤で、表土の土性はCL~LiC、下層土はLiC~HCである。田平町、松浦市に僅かに分布し、野菜、ミカン、甘藷、麦、飼料作物等が栽培されている。

2-2-5 褐色低地土壤

下層土の土色が黄褐色の土壤で、鉄、マンガンの斑紋、結核を含む。表土の土性はL~CL、LiCで、江迎川、佐々川流域に分布し水田として利用されている。

2-2-6 粗粒褐色低地土壤

下層土の土色が黄褐色の土壤で、地表下30 cm前後以下礫層を有する。鉄の斑紋にとみ土性は表層土ともにL~CLである。小佐々町、および佐世保市に分布し、水田として利用されている。

2-2-7 細粒灰色低地土壤

下層土の土色が灰色~灰褐色を呈する土壤で、鉄、マンガンの斑紋結核を含む。

表土の土性はCL、下層土はCL～SiCで佐々町、鹿町町、松浦市に分布し、水田として利用されている。

2-2-8 粗粒灰色低地土壌

下層土の土色が灰色～灰褐色の土壌で、地表下40cm前後以下礫層を有する。表土の土性はCL、下層土はCL～HCで鹿町町、松浦市に僅かに分布し、水田として利用されている。

2-2-9 細粒グライ土壌

作土直下か地表下30～50cm以下グライ層を有する土壌である。低地グライと台地グライが含まれ鉄の斑紋を含む。土性は表土下層土ともにLiCで水田として利用されている。

2-2-10 グライ土壌

作土直下か地表下30～50cm以下グライ層を有する土壌である。鉄、マンガンの斑紋結核を含み、表土の土性はL～CL、下表土はSL～LiCである。水田として利用されている。

(長崎県総合農林試験場 小野末太)

Ⅳ 傾斜区分図

本図幅中S6～S7の急傾斜面が著しく発達している主な地域は、海岸部ならびに島嶼部の海食崖と溶岩台地(高位・中位・低位とも)の縁辺部にある急傾斜面とである。前者では、例えば、赤松崎(Ⅱe)・鹿町港兩岸(Ⅱd)や瀬尻島東岸(Ⅱd)・ではS7、上・下枯木島(Ⅱd)はS7の海食崖で囲まれているし、焼島・高島(Ⅱc)では内海側にS7の海食崖がある。後者では南部山地(Ⅰa)・中央山地(Ⅰb)・西部山地(Ⅰc)・東北部山地(Ⅰd)の高位溶岩台地の縁辺急傾斜面は、いずれもS6～S7の数値を示している。また上床中位溶岩台地(Ⅰf-1)の縁辺にもS7の急崖があり、西北部・低位溶岩台地(Ⅰe)はS5～S7の急崖で平戸瀬戸に臨んでいる。その他のS7を示すところは佐々川断層に沿う金比羅岳山地(Ⅰc-3)の東麓に直線状の急崖S6が発達している。江迎川の上流を争奪した佐々川の支流・福井川沿岸の田ノ元では争奪の時に当るウインドギャップの地点に急崖があり、東立石付近には峡谷の急崖がある。いずれも激しい河川の浸食によるものである。また、佐々川・江迎川・相浦川の流域には微地形的な段丘崖

がみられる。

溶岩台地縁辺の急崖下には、山麓地が広がり、山麓地では一般に S 3 ~ S 4 の数値が示されているが、地すべりの多発した山麓地では、石盛山山麓地 (I b' - 1) にみられるように、地すべり地形の頭部と末端部に S 2 の平坦面を介在する。五蔵岳山麓地 (I b - 2) にも同じ型式の S 2 の平坦面がある。溶岩台地の台地面は一般に S 2 を示しているがやや、浸食の進んだ西北部低位溶岩台地 (I e) や白岳原高位溶岩台地 (I d - 2) ではゆるやかな起伏があつて、その傾斜は S 3 となつている。台地面上で、残岳状の小突起をなしている将冠岳・弓張岳 (I a - 1) ・烏帽子岳 (I a - 2) ・石盛山 (I b - 1) ・五蔵岳 (I b - 2) ・大観山 (I c - 1) ・牧ノ岳 (I d - 1) ・大岳 (I e - 3) ・吹上山 (I e - 4) などは S 3 ~ S 5 の傾斜値を示している。丘陵地は S 3 ~ S 4 の傾斜値が大部分を占めるが、南九十九島丘陵地 (II c) では残丘状の高岳が S 6、愛子山丘陵地 (II a) の残丘・愛宕山が S 6 の急斜面を呈している。また大西山丘陵地 (II f) では山頂部に S 2 を示す溶岩台地が残存し、西側には S 7 の急崖を伴っている。谷底平野は S 1 ~ S 2 の平坦地、兩岸の段丘は一般に S 2 の傾斜値を示している。

(長崎大学教育学部 石井 泰 義)

V 水系，谷密度図

当図幅の主な水系は玄海難に流入する北部河川の上流部と平戸瀬戸に流入する河川ならびに南九十九島海域に流入する河川の 3 つに大別される。北部河川は東北部山地 (I d) を刻んで流れる調川川、志佐川とがあり、共に沿岸に地すべり地形を有する。西北部山地 (I e) を流れる田代川・坂瀬川・釜田川は台地上を緩流し沿岸に地すべり地形が乏しい。末橋川のの上流は低位台地上を流れ遷移点 (夕霧籠) を経て平戸瀬戸に入る。

西北部山地 (I e) と西部山地 (I c) の境界を東西に流れる江迎川はその上流部を佐々川に争奪され、田ノ元にはウインドギャップの地形がみられる。支流の鹿町川・山田川嘉例川は、それぞれ大西山丘陵 (II f)、西部山地 (I c)、東北部山地 (I d) ・西北部山地 (I e) の地形区分の境界線上を流れている。

佐々川の本流は中央山地と東北部山地、西部山地の境界線上を流れ、支流福井川は、かつて江迎川の上流部であつたが本川が争奪したもので住吉付近は峡谷状をなしている。本

流の左岸には地すべり地形が著しく発達している。相浦川は南部山地（I a）と中央山地（I b）の境界線上を流れ、右岸は地すべり多発地帯である。弓張岳山地（I a-1）と烏帽子岳山地（I a-2）との境界には佐世保川が南流している。

本図幅における谷密度は高位溶岩台地では、30以上の数値を示し、南部山地（I a）では弓張岳・烏帽子岳の西側山麓地の一部で40以上、中央山地では八ノ久保周辺の山麓地、東北部山地では残丘化された牧ノ岳付近、西部山地では大野岳・盲目ヶ原の東北部で40以上の高い数値が示される。高位溶岩台地ならびにその山麓地の中にあつて30以下の比較的低い数値を示す地域は、石盛山山麓地（I b'-1）や五蔵岳山麓地（I b'-2）の大型地すべりの発生している地区である。西部山地（I c）では金比羅岳西方の古い地すべり地形のみられる上歌ヶ浦地区で30以下、白岳原山地（I d-2）では白岳池付近の地すべり地区や、豆五郎山西方地すべり地区、高法知岳東方の地すべり地区では30以下が示される。しかし谷密度30～40の数値を示す地すべり地区もあげられる。例えば韭岳および大岳（I b-2内）周辺の地すべり地区は30～40の数値を示している。

南九十九島の丘陵地では谷密度は20以下となり、特に島嶼では、高島が10台を示すほかは谷密度10以下である。平戸島・海岸部の地すべり多発地帯では谷密度10～20の数値が示されている。

（長崎大学教育学部 石井 泰 義）

Ⅵ 防 災 図

(1) 地すべり防止区域

地 域 名		所 在 地		地域面積(ha)	家屋数(戸)	告 示年月日	地すべり地の概況発生年度	所管
区 域 名	関 川 係 名	群 市	町 村					
大 野	相 浦 川	佐世保市	大 野 町	54.09	42	35.9.13	昭和28.31	建設
袖木小舟	〃	〃	袖 木 町	66.32	110	35.3.4	28	〃
松 山	〃	〃	松 山 町	7.68	44	36.5.17	28	〃
川 内	〃	平 戸 市	川 内 町	9.00	145	35.10.1	28.34	〃
松 山 田	調 川 川	松 浦 市	調 川 町	29.9	69	34.11.5	28	〃

地域名		所在地		地域面積 (ha)	家屋数 (戸)	告示年月日	地すべりの概況発生年度	所轄
区域名	関河川係名	群市	町村					
橋ノ本	志佐川	松浦市	志佐町	24.7	10	34.11.5	昭和28	建設
池成	〃	〃	〃	36.0	24	〃	28	〃
木場	田代川	〃	御厨町	11.40	7	〃	28	〃
栢木	栢木川	〃	志佐町	27.82	35	35.9.13	27	〃
白井岳	調川川	〃	調川町	80.20	64	35.3.4	26	〃
桑木場	恵太郎川	〃	志佐町	14.36	118	36.5.17	〃	〃
西山	〃	〃	〃	11.36	41	〃	29.3.2	〃
鷺尾岳	江迎川	北松浦郡	江迎町	69.0	27	34.11.5	26.3.2	〃
末橋	〃	〃	〃	37.04	51	35.9.13	23.28.33	〃
長坂	江迎川	〃	〃	9.76	32	38.10.11	28.	〃
大屋	〃	〃	鹿町町	16.81	204	36.5.17	大正10	〃
長串	〃	〃	〃	10.37	131	〃	昭和26	〃
楠泊	〃	〃	小佐々町	5.16	29	〃	26	〃
平原	小佐々川	〃	〃	5.04	3	43.9.17	40	〃
芳野浦	〃	〃	佐々町	5.26	55	36.5.17	34	〃
徳正	木場川	〃	〃	19.01	45	39.1.18	34	〃
上吉田	大茂川	〃	吉井町	21.41	0	35.9.13	大正12.昭7	〃
長田代	佐々川	〃	世知原町	205.66	142	35.8.25	昭和28.31	〃
木浦原	木浦原川	〃	〃	55.60	17	35.9.13	昭和26	〃
筒瀬	佐々川	〃	〃	14.85	16	〃	17	〃
神鳥	〃	平戸市	木場町	14.10	0	37.2.14	28.34.35	農林
宝亀	〃	〃	宝亀町	19.00	10	〃	28.34	〃
田崎	田崎川	〃	田崎町	29.50	4	37.3.24	7.28	〃
栗林	佐々川	北松浦郡	佐々町	257.78	19	38.8.29 44.3.31 45.3.31	28.31.37	〃
上川内	木場川	〃	〃	10.70	5	38.8.29	32.34	〃

地 域 名		所 在 地		地域面 積(ha)	家屋数 (戸)	告 示 年月日	地すべり地 の概況 発生年度	所轄
区 域 名	関 河 川 係 名	群 市	町 村					
水 垂		平 戸 市	水 垂 町	20.00	4	38.8.30	28	農林
奥 川 内	江 迎 川	北松浦郡	江 迎 町	102.50	4	39.4.27 44.3.31	28.30	〃
第2上川内	木 場 川	〃	佐 々 町	8.84	0	40.12.11	32.34	〃
木 場	木場川・佐々川	〃	〃	142.07	0	40.12.11 44.3.31	28.37.42	〃
日 隠	志 佐 川	松 浦 市	志 佐 町	20.25	7	41.5.18	28	〃
宮 の 前	口 の 里 川	北松浦郡	鹿 町 町	236.70	2	41.5.18 45.3.31	28.37	〃
第3上川内	木 場 川	〃	佐 々 町	7.95	0	41.12.9	32.34.37	〃
京 崎		平 戸 市	宝 亀 町	87.70	8	43.2.27	28.34	〃
大 山	大 山 川	〃	川 内 町	180.95	0	43.3.27	28.34	〃
上 本 山	清水川内	佐世保市	上本山町	100.08	1	45.3.31	30.42	〃
黒 灰	佐 々 川	北松浦郡	佐 々 町	13.74	2	33.8.30	29	林野
併 ノ 坂	〃	〃	〃	7.89	15	〃	28	〃
大 瀬	〃	〃	小佐々町	40.80	12	34.6.5	30	〃
大 岳		北松浦郡	佐 々 町	42.73	6	34.6.5	28	〃
知 見 寺	相 浦 川	佐世保市	知 見 寺 瀬	110.00	66	37.8.4	18	〃
大 塔		北松浦郡	田 平 町	17.00	6	34.12.16	20	〃
狩 立	佐 々 川	〃	佐 々 町	9.60	1	37.8.4	33	〃
賞 観 岳		佐世保市	吉 井 町	78.00	20	〃	30	〃
樽 川 内	佐 々 川	北松浦郡	吉 井 町	47.00	19	〃	34	〃
生 向		〃	田 平 町	22.50	20	37.8.4	17	〃
牧 ノ 地	相 浦 川	佐世保市	牧 ノ 地	74.20	15	37.11.19	15	〃
牧 ノ 岳	佐 々 川	北松浦郡	吉 井 町	15.00	4	〃	2	〃
中 尾	江 迎 川	〃	江 迎 町	14.30	10	〃	26	〃
八 尋	佐世保川	佐世保市	松 山 町	69.00	—	38.5.22	33	〃
平 山	佐 々 川	北松浦郡	吉 井 町	64.00	7	38.1.9	36	〃

番号	河 川 名		所 在 地	指 定 関 係 事 項		着 工 年 度	竣 工 年 度
	幹 川 名	溪 流 名		告 示 年 月 日	面 積 (ha)		
	福 石 川	福 石 川	佐世保市木風町	24. 12. 2	0. 06	24	25
	江 迎 川	野 田 川	北松浦郡江迎町	34. 12. 14	16. 68	34 40	35 42
	〃	江 迎 川	〃 〃	37. 11. 14	5. 00	36 38	37 41
	〃	小川内川	〃 〃	44. 3. 13	7. 47	44	44
	〃	嘉 例 川	〃 〃	47. 3. 29	14. 19	46	47
	〃	小 迎 川	〃 〃	48. 5. 22	10. 30	48	51
	佐世保川	赤 木 川	佐世保市赤木町	32. 9. 6	7. 40	32 33	32 33
	〃	佐世保川	〃 春日町	36. 9. 29	4. 14	35	35
	鹿 町 川	鹿 町 川	北松浦郡鹿町町	42. 3. 22	8. 80	42	43
	御 船 川	御 船 川	佐世保市御船町	42. 11. 30	1. 28	42	43
	竹 田 川	竹 田 川	北松浦郡小佐々町	43. 2. 16	4. 50	43	43
	〃	東ノ木川	〃 〃	47. 2. 14	2. 08	46	47
	大 石 川	大 石 川	〃 〃	43. 2. 16	2. 70	44	45
	上 矢 岳 川	上 矢 岳 川	〃 〃	47. 2. 14	2. 42	45	46
	宮 田 川	宮 田 川	〃 〃	47. 3. 29	2. 86	46	48
	歌ヶ浦川	歌ヶ浦川	〃 鹿町町	〃	3. 60	47	48
	調 川 川	調 川 川	松浦市調川町	29. 3. 29	0. 29	28	28
	〃	〃	〃 〃	31. 3. 3	0. 70	30	31
	〃	〃	〃 〃	34. 9. 5	0. 10	34	34
	〃	〃	〃 〃	36. 3. 31	0. 77	35	35
	志 佐 川	立 石 川	〃 志佐町	42. 3. 22	2. 10		
	佐々山川	栢ノ木川	〃 〃	47. 2. 14	2. 87	45	45
	志 佐 川	長 野 川	〃 〃	47. 3. 29	3. 56	47	47
	〃	庄 野 川	〃 〃	48. 5. 22	6. 12	48	50
	〃	笛 吹 川	〃 〃	〃	13. 03		

資料：県河川砂防課調

(3) 急傾斜地崩壊危険区域

番号	指定区域名	所在地	告示年月日	面積 (ha)	人家 (戸)
1	真 申	佐世保市	45. 5. 6	5.7	62
2	松 山	〃	〃	3.1	80
3	宮 田	〃	〃	3.1	58
4	清 水	〃	〃	1.6	66
5	高 梨 (2)	〃	〃	1.7	50
6	柳 町	〃	45. 7. 10	4.6	53
7	西ノ浜	〃	〃	11.2	105
8	蛭子町 (1)	〃	〃	9.3	73
9	〃 (2)	〃	〃	4.4	50
10	築 町	〃	〃	4.9	52
11	高 梨 町	〃	〃	2.3	52
12	棚 方	〃	46. 5. 11	7.0	32
13	鵜 渡 越	〃	〃	1.6	9
14	原 分	〃	〃	1.5	24
15	瀬 戸 越	〃	〃	2.7	56
16	保 立	〃	〃	0.9	9
17	名 切	〃	〃	0.47	8
18	福 田	〃	48. 2. 20	0.68	23
19	岩 下	江 迎 町	46. 8. 31	1.40	22
20	上 川 内	〃	48. 3. 15	1.46	24
21	杉 谷	鹿 町 町	46. 4. 30	0.69	8

資料：県河川砂防課調

Ⅶ 開 発 規 制 図

(1) 国 立 公 園

西海国立公園

面 積 24,324 ha

指 定 昭和30年3月16日

区 域 佐世保市、福江市、平戸市外16町

(2) 県 立 公 園

(単位 : ha)

公 園 名	指定年月日	関係市町村	公園面積	利用型式	公園の特色
北松県立自然公園	S 37. 1. 10	8 市町村計	3,514.2	ピクニック	丘陵景観・歴史 景観地域 (国見山系高原 シニ次林 夏緑広葉樹林 お橋観音ほか 窯跡など)
		・ 松 浦 市	350.0	ハイキング	
		大 島 村	474.5	サイクリング	
		・ 田 平 町	315.5	宿泊休養	
		・ 江 迎 町	317.0		
		・ 佐 々 町	756.2		
		・ 吉 井 町	495.0		
		・ 世知原町	802.0		
小佐々町	4.0				
大村湾県立自然公園	S 41. 1. 11	9 市 町 計	2,235.0	ピクニック	海洋景観地域 (リヤス式海岸 海峡、多島群 内陸海岸 鉱 泉)
		大 村 市	139.0	フィッシング	
		東彼杵町	130.0	セーリング	
		川 棚 町	311.0	海水浴	
		・ 佐世保市	104.0	宿泊保養	
		多良見町	215.0		
		長 与 町	150.0		
		時 津 町	295.0		
		琴 海 町	531.0		
		西 彼 町	360.0		

資料：県立自然公園調書（県自然保護課）

(注) 1. 面積は図上測定である。

2. 印は本図葉内関係市町村

(3) 保 安 林

市町村名	総 数		水 源 かん養林	土砂流出 防 備 林	土砂崩壊 防 備 林	防風林	魚つき林	その他
	箇所数	面 積						
佐世保市	45	1,189.50	896.92	203.85	66.10	5.75	16.88	—
平戸市	97	100.41	—	8.53	0.81	15.85	74.46	0.76
松浦市	22	141.76	—	114.30	1.92	—	22.54	3.00
田平町	15	24.41	—	—	—	—	23.74	0.67
江迎町	1	26.08	—	26.08	—	—	—	—
鹿町町	28	31.11	—	2.05	—	—	29.06	—
小佐々町	11	31.61	—	24.28	0.79	—	6.54	—
佐々町	1	2.23	—	2.23	—	—	—	—
吉井町	1	9.42	—	9.42	—	—	—	—
世知原町	8	24.33	—	20.88	3.45	—	—	—
計	229	1,580.86	896.92	411.62	73.07	21.60	173.22	4.43

資料：長崎県の林業（林務課）

(4) 風 致 地 区

名 称	面 積 (ha)	市 町 村 名
鵜渡越風致地区	291.0	佐 世 保 市
九十九島風致地区	1,879.4	〃
八幡風致地区	18.5	〃
祇園風致地区	10.8	〃
眼鏡岩風致地区	10.4	〃

資料：県都市計画課調

(5) 鳥獣保護区

名 称	区 域 (ha)	指 定 期 間
県設烏帽子岳鳥獣保護区	370	S 48. 11. 1 ~ 58. 10. 31
県設御橋観音鳥獣保護区	312	S 47. 11. 1 ~ 57. 10. 31
県設佐世保市鳥獣保護区	110	S 48. 11. 1 ~ 58. 10. 31
県設江迎小学校愛護林鳥獣保護区	12	S 42. 11. 1 ~ 52. 10. 31

資料：長崎県鳥獣保護区概要図（昭和49年度）

(6) 都市計画区域

(単位：ha)

区域名	区域内 市町村名	範 囲	面 積	市 街 化 区 域	市 街 化 調 整 区 域
佐世保	・佐世保市	行政区域の一部	2,390.0	3,970	1,993.0
平戸	・平戸市	〃 の一部	1,400	—	1,400
松浦	・松浦市	〃 の一部	3,068	—	3,068
江 迎	・江迎町	〃 の全域	3,190	—	3,190
	・田平町	〃 の一部	680	—	680
	・鹿町町	〃 の一部	1,455	—	1,455
	計		5,325	—	5,325
佐々	・佐々町	〃 の全域	3,238	—	3,238

資料：県都市計画課調

(注) ・印は本図案内関係市町村

(7) 宅地造成規制区域

佐世保市宅地造成規制区域 2,356 ha

1975年3月 印刷発行

県北総合開発地域

土地分類基本調査

佐世保

編集発行 長崎県企画理事付企画主幹
(土地対策担当)

長崎市江戸町2-13

印刷 (株)富士マイクロサービスセンター

熊本市水前寺6丁目46-1